

# 敦煌美術東西交界史論

田林 啓（白鶴美術館）著

定価 16,500 円（本体 15,000 円+税 10%）

A5 判上製函入 口絵 8 頁 本文 462 頁 ISBN 978-4-8055-0960-9 C3071 2022 年 3 月刊

世界最大規模を誇る仏教美術遺跡である、  
敦煌の莫高窟の成立と展開を新出の資料を交えて描き出す――



世界最大の仏教石窟寺院・莫高窟を擁する敦煌は、河西（中国）とタリム盆地（西域）が境界を交わらせる地、すなわち「東西交界地」であり、さらに南に青海・チベット高原と北に蒙古高原を臨む。そのため、この地には様々な文化が吹き込んでくるのであるが、同時に交界地でありつつ武威、酒泉を結ぶ河西回廊の幹線ルートの特長線よりも南側に位置するため、本質が諸要件を増減しながら循環、滞留を繰り返して、独自の美術史を形成した。その様相は、日本のそれに通じ、両地がアジアで最も仏教美術を保存状態良くまとまった形で残し、日本への仏教伝来の年（五三八）に敦煌で初期の紀年銘を持つ洞窟が開かれた事実も全くの偶然とは思われない。本研究は、莫高窟の特色ある共通点を持つ洞窟、すなわち第二八五窟（六世紀前半）、第三三三窟（七〇〇年前後）、第七二窟（十世紀半ば）について深く掘り下げた上でその結果を基軸として敦煌美術の本質ならびに各時代の性質を浮かび上がらせる。

〔序章 本研究の目指すところ〕より抜粋



敦煌は古来より東西の様々な文化が交差する地であり、世界最大の仏教石窟寺院、莫高窟の諸石窟は時代とともに複雑な展開をたどった。中国の南朝時代から唐代を経て五代へ至る各時代の諸石窟について、最新の研究成果をもとに詳細な検討を加え、各時代の特徴を浮かび上がらせる。

目次概略

序章 本研究の目指すところ

第一部 莫高窟北朝窟の系譜

- 第一章 莫高窟北朝窟の成立——河西諸石窟との比較検討
- 第二章 東方の様式・図像の受容——畏獣像をはじめとした中国伝統図像
- 第三章 東方の様式・図像の表出——莫高窟第二四九窟
- 第四章 西方の図像と様式——コータン絵画の分析
- 第五章 東西様式の併存現象——炳靈寺野鷄溝（第一九二窟）北朝壁画
- 第六章 東西交際の精華——莫高窟第二八五窟

第二部 継承と展開——唐・五代窟

- 第一章 唐代窟における中国的表現の確立——莫高窟第三三三窟と『画図讚文』
- 第二章 五代窟における敦煌聖性喧伝戦略——莫高窟第七二窟
- 第三章 敦煌仏画制作システムの確立——十世紀敦煌絹本仏画
- 第四章 莫高窟北朝窟から唐代窟、五代窟へ——藏経洞封蔵考と共に
- 終章 東西交界地の美術——敦煌美術の性質

図版出展  
あとがき  
初出一覧  
中文摘要  
索引

【著者略歴】 田林 啓（たばやし・けい）

1982年生  
神戸大学大学院博士課程後期課程修了。博士（文学）。  
白鶴美術館学芸副主任、京都大学人文科学研究所人文学連携研究者。

〔著作等〕  
『神異僧と美術伝播』（百橋明穂・田林啓編著、菅村亨・瀧朝子・張善慶・趙青山・許棟著）中央公論美術出版、2021年ほか

関連書籍

神異僧と美術伝播

百橋明穂・田林 啓 編

史実と虚構のはざままで生成されるイメージをめぐる——不可思議な事績を示した神異僧（じんいそう）を紐帯として繋がり合う仏教美術。日本と中国の研究者による9本の論考を収録し、美術伝播の様相を読み解く。  
本書は、2017年に大和文華館で開催された、神異僧をめぐるシンポジウムをもとにした画期的な論文集。

定価 3,960円（税込）

A5判上製カバー装 本文264頁 口絵8頁 2021.2 ISBN 978-4-8055-0888-6

第25回（2013年）國華奨励賞受賞  
中国石窟美術の研究

濱田瑞美 著

本書は、図像研究を通して石窟空間全体の構想を読み解くという視点を持ち、長期にわたる現地調査によって得た図像資料と綿密な読解を加えた多くの関連経典・仏教史資料を駆使しており、その史料価値も多大である。中国の南北朝から唐宋期まで、また地域も幅広く扱う本書は、中国大陸における石窟美術の歴史を実証的に論述した、気鋭の研究。

定価 14,300円（税込）

A5判上製函入 本文400頁 口絵4頁 2012.10 ISBN 978-4-8055-0688-2

中央公論美術出版

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-10-1

IVYビル6F

Tel: 03-5577-4797 Fax: 03-5577-4798

お問い合わせ